大フォーラム実行委員会ニュース

津久井やまゆり園事件を許さない！　施設から地域に出せ！！

「骨格提言」の完全実現を求める 10.27 大フォーラム実行委員会　2016 年 12 月 29 日発行

【事務局】 〒154-0021 東京都世田谷区豪徳寺 1-32-21 スマイルホーム豪徳寺 1F

自立生活センターHANDS 世田谷気付　TEL 03-5450-2861／FAX 03-5450-2862／Email　hands@sh.rim.or.jp

「骨格提言」の完全実現を求める 10.27 大フォーラム

幅広い立場から　優生思想反対の声

2016 年 10 月 27 日に、「骨格提言」の完全実現を求める 10・27 大フォーラムが日比谷野外音楽堂で開催されました。7 月 26 日に起きた相模原の津久井やまゆり園事件を受けて、二度とこのような事件を起こさせてはならないと、全国から約 600 人が集まり、幅広い立場からの発言がありました。

ご賛同・ご協力くださいました皆さんに、報告ニュースをお送りします。

【実行委員長メッセージ（要旨）】

私たちは何故骨格提言の完全実現にこだわっているかと言うと、今から 11 年前の 2005 年 10 月 31 日に衆議院本会議で自公の賛成多数により障害者自立支援法が強行採決されました。

2009 年の政権交代の後、当時の厚労大臣が私たちの目の前で謝罪し、もっとよい法律を作るので力を貸してくださいと言われました。そして「創ろう　みんなの障害者総合福祉法を！」をスローガンに制度改革推進会議が立ち上がりました。私たちの仲間が制度改革推進会議に参加し、よりよ

い制度を作ろうとしました。そこでまとまったのが骨格提言でした。骨格提言は「私たちを抜きに私たちのことを決めるな」という合言葉で地域で暮らすことを目的にまとめ上げ、これから前へ進もうと思っていた矢先に、2012 年には民主党政権が大敗し、再び自公政権へ戻りました。そこで今までの流れが逆回転したように制度改革推進会議はなくなり、再び当事者抜きの委員会で当事者抜きの部会が発足されました。

骨格提言を実現していけば、あんな悲惨なやまゆり園のような事件は起こらなかったと思います。だからこそ私たちは骨格提言にこだわっています。本当に生きにくくなってきたと思います。今こそ、いろいろな団体を超えて連帯していきましょう。

「骨格提言」の完全実現を求める 10.27 大フォーラム実行委員長　横山晃久

津久井やまゆり園事件に抗議する！

今回司会は、脳性マヒ者運動の若手活動家である、猿渡達明さんと峰岸真知子さんが努めました。

基調報告では CIL くにたち援助為センターの篠原由美実行委員から、9 月 27 日に行われた大フォーラム実行委員会と厚労省の交渉にふれ「厚労省は容疑者を単に『偏った考え方』と切り捨て、どのような労働条件で働いていたか、施設での利用者への対応、虐待の有無など全く調べてさえいないことが明らかになりました。政府は容疑者の言動がなぜ生まれてきたのかについて、全く解明しようとしていません。」と指摘し、政府が立ち上げた「相模原市の障害者支援施設における事件の検証及び再発防止策検討チーム」の中間まとめについては「大部分が措置入院後の対策のみにあてられています。あたかも容疑者が精神障害者だからこのような事件を起こしたと言わんばかりです。これでは、精神障害者への差別や偏見を助長しているようなものです。精神障害者への強制医療の強化が懸念されます。」と批判しました。

つづいて、「脳性マヒ者の会 一歩の会」の金子和弘さんの発声で、津久井やまゆり園で犠牲になった 19 名の方に哀悼の意を表して黙祷が行われ、その後、様々な立場から事件に対する訴えがなされました。

世田谷区長の保坂展人さんは、「国会にいた経験から、ただちに与野党を超えて『相模原事件』の集中審議を行うべきだ」と提案。知的障害者の立場からピープルファーストジャパンの皆さんがそれぞれの思いを訴え「私たちは障害者である前に人間だ！」と叫びました。精神障害者の立場からは、こらーるたいとうの工藤恵さんと加藤真規子さんが発言。工藤さんは「津久井やまゆり園の仲間たちが楽しく、悔いのない自立生活をおくれるように応援しよう」と呼びかけました。

ALS/MND サポートセンターさくら会からは、橋本操さんと酒井ひとみが登壇し「私は ALS を発症してからの方が人生を楽しんでいるし、誰かに何かを言われる筋合いはないし、殺される筋合いなんてもっとない」と発言。つづいて、神経筋疾患ネットワークはメンバーそれぞれからの一言メッセージがあり代表の見形信子さんを中心に津久井やまゆり園事件で犠牲になった 19 人の人生を歌った「19 の軌跡」が合唱されました。

福祉施設の労働者として、ゆにおん同愛会の林武文さんは、「当事者の視点を抜きにした支援者の『仕事のやりがい、働きがい』はありえない」と問題提起しました。支援者の立場で渡邉琢さんからは「なぜ、施設に入る前に、ぼくらは地域で支援を続けることができなかったのか、そこそぼくらは自らに問うべき」と訴えました。

療護施設である多摩療護園園長の平井寛さんは、入所施設があり続けている現実からすれば「地域で解決できる支援力の強化がより一層求められている」と指摘、同園で暮らしている多摩療護園居住者自治会副会長の川崎一郎さんから「全ての障害者が（あるいは健常者が）活き活きと自信を持ちながら、一人の人間として他者を排除せずまた他者の排除を受けず、その人らしく生きていけるような社会を目指して行くことが益々問われています。」とする療護施設自治会全国ネットワークの「津久井やまゆり園事件についての見解」が読み上げられました。

事件に報道記者の立場で関ってきた東京新聞の田原牧さんは「差別解消への道が見えなくても、一介の記者として差別、優生思想を告発していかねばならないと考えます。」という思いが語られました。そして、日本脳性マヒ者協会・全国青い芝の会事務局長の大橋邦男さんから、「なすべきは、措置入院制度の在り方検討会の立ち上げではなく、まず優生保護法の被害者への謝罪を行い、検証・補償の検討会の立ち上げを行うことだ」という青い芝の会の見解が表明されました。

連帯アピール、そして現場からのリレートーク

今年は、団体を代表しての連帯アピールを３名の方からいただきました。障害者自立支援法訴訟の基本合意をめざす会から家平悟さんは「憲法をないがしろにする政権が幅を利かせる厳しい情勢の中だからこそ、障害者の権利条約、基本合意・骨格提言を実現する運動を障害者分野だけでなく他の分野にも大きく広げることを決意しよう」、病棟転換型居住系施設を考える会の長谷川和夫さんは「内閣府の障害者政策委員会から精神障害と知的障害の当事者の方が委員から外されてしまっている。そういった当事者抜きの議論というのは、全くまともなものは生み出さないというのは間違いない」、そして日本障害者協議会常任理事の増田一世さんは「介護保険との統合に反対の意志は変わらないが、誰しもが齢を重ね、障害を得ることを考えると、この介護保険の大後退をまさに我が事として考えていく必要があるのではないか。これまで以上に幅広い人たちと連帯し、この社会保障の大後退にストップをかける運動を展開していこう。」とそれぞれ訴えられました。

国会議員は、阿部知子衆議院議員、金子恵美衆議院議員、山本太郎参議院議員の３名が登壇し、福島みずほ参議院議員からもメッセージが寄せられました。

現場からの訴えでは、まず人工呼吸器をつけた子の親の会（バクバクの会）会長の大塚孝司さん

から、「人工呼吸器をつけていてもどんな障害があっても、“ひとりの子ども、ひとりの人間” いのちと思いを何よりも大切にしなければならない。尊厳死法制化に対し強く反対します」と訴えがあり、会のメンバーと一緒に「バクバクっ子・いのちの宣言」を読み上げました。

優生手術に対する謝罪を求める会　の山本勝美さんは、「不良な子孫の出生を防止する」ことを目的とした優生保護法（1996 年に母体保護法に改正）の下で強制的に行われた優生手術によって、子どもが生めないからだにされてしまった女性が、日本政府に対して謝罪を要求していることを紹介し、支援を呼びかけました。

難病をもつ人の地域自立生活を確立する会の西田えみ子さんは、「世界では当たり前になっている I 型糖尿病、『日本では客観的診断基準がない』として制度から排除されて続けている。筋痛性脳脊髄炎、線維筋痛症、科学物質過敏症、そういう病気はいくら困っていても、同じように排除されている。国連障害者権利条約の委員の人たち助けてください！」と訴えました。

反貧困ネットワークからは代表世話人で弁護士の宇都宮健児さんが登壇。「厚生労働省は、生活保護のこれまでの引下げに加えて、母子加算と障害者加算の引下げを検討している。これを絶対に許してはならない。」と発言しました。

しょうがいしゃに介護保険を強制しようとするいわゆる「65 歳問題」については、福島県郡山市の白石清春さんと兵庫県尼崎市の髙見元博さんの 2 名が発言しました。白石さんは「市に対して、介護保険は申請しないとはっきり宣言した。市は総合支援法の受給者証を 3 ヶ月ごとに書き換えさせるという嫌がらせのようなことをしている。介護保険と障害者総合支援法の統合を許さない運動を広めていこう。」と呼びかけ、髙見さんも「要介護認定は受けないと市に通告した」と報告した上で「高齢者もしょうがいしゃも介助は社会モデルで行うべきだ」と訴えました。

リレートークの最後に、千葉県習志野市に正規職員の身体障がい者枠で採用され、今年 2 月に不当解雇された当事者の方から発言がありました。交渉の中で市の総務部長が「法定雇用率を満たすために雇ったのであり、障がいがあっても、健常者職員と同等あるいはそれ以上の能力が求められる。しょうがいへの配慮は一切しない。」と言い切ったことなどが報告されました。大フォーラム実行委員会としても、この解雇は明らかなしょうがいしゃ差別であると実行委員会として 2 回にわたり習志野市との話し合いを申し入れましたが、市側は一切応じていません。現在、解雇撤回の裁判が提起されており、本人からも支援の呼びかけがされました。

集会アピールを満場一致で採択

リレートークの後、集会アピール案を障害連の尾上裕亮さんが読み上げ、満場一致で採択されました。

アピールの採択に続いて、HANDS 世田谷の山形重人さんのコールに合わせてシュプレヒコールをあげました。

野外音楽堂での集会終了の後、参加者は場所を厚生労働省前に移し、「津久井やまゆり園事件を許さない！」「私たち抜きに　私たちのことを決めるな！」と 1 時間以上にわたってアピール行動を行い、2016 年の大フォーラムは終了しました。

集会アピールとシュプレヒコールは、以下の通り。

【集会アピール】

障害者差別解消法が施行された今年、私たちにとってひじょうに哀しい事件が起きました。

7 月 26 日未明、神奈川県相模原市にあるしょうがいしゃ施設・津久井やまゆり園で、男が侵入し、入所者 19 名を死亡させ、27 名を負傷させた事件。 被害にあわれたかたのご冥福をお祈りするとともに、順調な回復をお祈りいたします。

犯人は、ことし 2 月に、しょうがいしゃは社会にとって不要な存在とする手紙を衆議院議長宛に書いていたり、「彼らはいなくなればいい」と話すなど、しょうがいしゃに対するゆがんだ考えをもっていました。

私たちはこの事件に対して、怖さと怒りをおぼえています。私たちの仲間には、「自分たちもおそわれないか」、「周りの人も“しょうがいしゃはいなくなればいい”と思っているのではないか」。そして、犯人を何の根拠もなく精神障害と決めつける政府や世間に対して、「自分も危険な人物としてみられないか」と思ってしまう人が多くいます。

「骨格提言」の完全実現を求める大フォーラムは、このような思いを共有し、ともに不安を乗り越えます。また、事件でふたたび浮き彫りになった社会の障害者不要論、しょうがいしゃを排除しようとするちからに対して断固反対し、しょうがいしゃが入所施設ではなく地域で暮らすことのできる環境整備を強く求めます。

この事件の根底にあるのは優生思想です。優生思想とは、人間の命に優劣をつける思想で、世界はもとより日本に昔からありました。たとえば、しょうがいしゃを保護者、施設職員がころす事件

は、くりかえされていて、保護者に対する減刑嘆願・同情的報道は、減りません。つい 20 年前まで、優生保護法が存在して、そのなかには不良な子孫の発生予防という条項がありました。

政府は長年、しょうがいしゃを地域で暮らせるようにすることよりも、本人の意に反してとおい施設で生活させることにちからをいれてきました。1960 年代からの経済成長期には、都市から離れた場所に入所施設をどんどん建てて、定員を満たすようにしょうがいしゃを入れてました。現在、入所施設にいる人は、精神障害で 32.3 万人、知的障害で 11.9 万人、身体障害で 7.3 万人います。また急速な高齢化社会により「入所施設にいれる」ということに何ら疑問を持たない世間があります。

しかし私たちは知っています。入所施設は“効率的な介護”が行われ、職員に従わなければいつ虐待がおこるかわからない状態であることを。本人の意志ではなく、家族や地域の事情と意志で入所させられることを。そして「厄介者は外へ一カ所に」という論理が、ひとびとのなかに働いているため、自治体は在宅サービスの充実や脱施設化をすすめないことを。これらに共通することは、しょうがいしゃを何もできない者、邪魔な存在とする優生思想が働いており、根底では相模原事件の犯人と同じなのです。

今日の集会で語られたように、政府は優生思想そのものを否定はせず、むしろ擁護するような政策を出しています。出生前診断で陽性だったひとの 9 割が中絶をえらんでしまうのは、しょうがいじを安心して育てられる環境の整備を社会があえて放棄しているからです。障害者虐待防止法の改正議論をはじめず､学校・病院を対象外のままにしつづけることは、しょうがいしゃの人権を軽んじでいるからではないでしょうか。改正される総合支援法は､「地域でどうくらせるか」という発想ではなく､「弱者はがまんせよ」という立場にたって、地域格差や、障害の種別・程度による支援格差をひろげています。政府は相模原事件の原因である優生思想をひとことも批判していません。それどころか厚生労働省は事件の原因を精神医療の不備にもとめ、措置入院の強化という、精神しょうがい者の社会復帰の促進とはまったく逆の方向を向いています。３年前に日本が批准した障害者権利条約にも反しています。

優生思想をもつ為政者は、どの時代にもいました。しかしすでに述べたような社会環境にあるいま、優生思想に同調する言動があちらこちらで聞かれます。

2011 年に当事者と関係者 55 名がまとめた「障害者総合福祉法の骨格に関する総合福祉部会の提言」は、ひとを線引きしない福祉政策を提言しており、優生思想がはいりこむよちがない社会を描いています。私たち大フォーラムは、この骨格提言を完全実現させることが、優生思想をなくすみちだと確信しています。今後とも、他の団体と広く連帯して、優生思想を根絶させる運動、骨格提言を実現させる運動をしていきます。

２０１６年１０月２７日

「骨格提言」の完全実現を求める 10.27 大フォーラム　参加者一同

【シュプレヒコール】
相模原事件を許さない！
優生思想反対！
仲間を殺すな！
虐待するな！　差別するな！
措置入院の強化をやめろ！

施設から地域に出せ！
しょうがいしゃとして堂々と生き抜くぞ！
基本合意を守れ！　骨格提言を実現しろ！
私たち抜きに　私たちのことを決めるな！
大フォーラムを続けるぞ！
私たちは闘うぞ！

多くの賛同に支えられ、今年も大フォーラムを実施できました

2016 年の大フォーラムも多くの賛同者の皆さんに支えられ、実施することができました。心より感謝をするとともに、下記にお名前を掲載させていただきます。

「骨格提言」の完全実現を求める 10.27 大フォーラム　実行委員会
【賛同団体】(順不同)
ピープルファーストジャパン／全国「精神病」者集団／怒っているぞ！障害者切りすて！全国ネットワーク／難病をもつ人の地域自立生活を確立する会／全国ピアサポートネットワーク／兵庫県精神障害者連絡会／NPO こらーる・たいとう／CIL くにたち援助為センター／町田ヒューマンネットワーク／自立生活センター グッドライフ／自立生活センターたいとう／鈴木敬治さんと共に移動の自由をとりもどす会／ガチャバンともに生きる会／特定非営利活動法人むく・魔法陣／スタジオ IL 文京／世田谷介助者ユニオン／日本脳性マヒ者協会「全国青い芝の会」／神奈川障害者自立生活支援センター／自立生活センター立川／一般社団法人 自立生活センター三田／自立生活センター 北／自立生活センターHANDS 世田谷／自立生活センター福岡／特定非営利活動法人あいえるの会／ピープルファースト東久留米／全国公的介護保障要求者組合／障害者の生活保障を要求する連絡会議（障害連）／自立生活センター・小平／スペースえるぶ／NPO 法人たんぽぽ／人工呼吸器をつけた子の親の会（バクバクの会）／グループ・飛躍／NPO 生活援助為センター／かりん燈　関東／心神喪失者等医療観察法（予防拘禁法）を許すな！ネットワーク／国立武蔵病院（精神）強制・隔離入院施設問題を考える会／全国一般労働組合東京南部フットワーク新宿分会／全国一般労働組合東京南部ケアワーカー連絡会／反貧困ネットワーク／ホームレス総合相談ネットワーク
自治労都東京都本部地域福祉ユニオン東京／NPO 線維筋痛症友の会／ゆにおん同愛会／怒りネット関西／関西合同労働組合／療護施設自治会全国ネットワーク／障害労働者全国連絡会（障労連）／ジョアン川崎／差別･排外主義に反対する連絡会／障害者団体定期刊行物協会／安心できる介護を！懇談会／CIL たすけっと／社福)同愛会 東京事業本部／一般社団法人すばる／医療労働運動研究会／NPO 法人 ALS/MND サポートセンターさくら会／脳性マヒ者の会「一歩の会」／他匿名 1 団体

【賛同個人】(順不同／敬称略)
喜多村憲一（ジョアン川崎）／浅野俊夫（京都退職教員職員の会会員）／髙見元博（兵庫県精神障害者連絡会）／糸数慶子（参議院議員）／小林律子（福祉労働編集部）／内田ひろき（柏市議会議

員）／下元たか子（世田谷市民運動いち）／根本善之（世田谷地区労事務局長）／中村公徳（全国連北摂支部支部長）／川西浩之／横山礼子／山形重人／長谷川薫／高橋和哉／阿井公夫（千葉県断酒会会長）／佐々木真紀／小野達雄（埼玉県所沢市）／西中誠一郎（練馬区）／丸山敬子／柴田靖子（目黒区）／小堺亮（地域でくらすための東京ネットワーク）／良元竜次／榊原ヨウ子／番場昭子／中沢浩二（大阪府）／粕谷嘉子（NPO 法人世田谷さくら会）／大河内智彦（ホームレス総合相談ネットワーク）／和泉正明（調布市）／高橋晶子（足立区）／村石朱理（大田区）／藤堂利寿（大田区）／辻安光／小畑健治／搥谷博通／上田要／安平俊／安平有希／坂根輝吉（京都ユーガネットワーク）／乙幡太郎／杉本博幸／池永真二／南雲君江／猪山固太郎／酒井修二／鴨治慎吾（東京頚損）／大橋邦男（全国青い芝の会･事務局長）／水沼芳文／横山道子（大阪府）／宮本博志／中澤悟／熱田弘幸（全障連）／木村英子／木村雅紀／亀山佳乃／沼尻好夫／名倉優子（稲城市）／狩野和繁（小平市）／細田加代子／石野はるみ（京都）／渡辺学（全国一般労働組合東京南部ケアワーカー連絡会）／仲川啓介／市川清美／長尾由美子（今、憲法を考える会）／松原康彦（新空港反対東灘区住民の会事務局長）／蔵渕克典／大野ひろ子（安心できる介護を！懇談会）／鈴木金雪／大竹智子／福島智（東京大学教授）／バーチ・カリー／松井俊次／山田純一／岡田弥生／山崎トモ子／粂川武／永田三枝子（清瀬わかば会）／田中洋子／八幡考雄／吉田寿男／藤田紀子（会社員）／太田佳郎／白崎朝子（フリーライター）／成沢富雄／島田健司／薗部英夫（めざす会）／宮尾修／福地一義／酒井弘道／佐野雄介／宮原秀一／新相勝己／砂田紀子（世田谷あみ∞あむ代表）／府川政人（「精神病者」）／佐藤龍樹／大河原さき（福島）／佐久間京子／遠藤美貴子／鳥尾理沙／内堀織／鈴木尚美／内本俊昭／中島浩義／富沢由子（国際人権完成実施を求める会）／林延哉／宇田美津江／川妻幸子／斎藤太郎／星野圭（弁護士）／川合千那未／田辺一雄／飯守汀子／中島和世（練馬区）／遠藤功子／石田伸子／相川幸子／白木準子／八代田道子／小池洋子／堂園朝子／小松健彦／菊池晴知（ユニオン習志野）／亀山照美／星将隆（NPO 法人さんきゅうハウス スタッフ）／木下真／田崎光哉（NPO 法人てんぐるま）／大出敦夫（ヘルプコネクションひねもす）／廣瀬誠／大黒堂ミロ／菊地敏明／吉野裕子／野島久美子（埼玉障害者市民ネットワーク）／黒田恵／和田たかお（前高槻市議会議員）／小西弘泰（医師）／蒲牟田桂子／木下俊子／田村文子／岩崎晶子（怒りネット関西）／吉武仁貞（京都）／石田勝啓（関西合同労働組合執行委員長）／藤本孝一郎／米澤鐵志（原爆被災者）／松野尾かおる（風をおこす女の会）／蜜山純子／船山幸子／川村望／山本由美子（非正規労働者）／弥永修（尼崎･伊丹三里塚実行委員会）／和泉健一／松田耕典（阪神社会運動情報センター）／佐々木伸良／大和恒朗／梶原義行／高野秀子／福井澪子（米軍Ｘバンド基地反対京都連絡会）／橋田秀美（No Base！沖縄とつながる京都の会）／高橋正次／清水基（大津）／岸園正俊／山本俊彦／山本加代／今井浩一／橋本成子／早瀬廣志／山本康／中川清子／山本博樹／山崎卓也（ピースムーブメント）／坂元朋則（原発ゼロ上牧行動）／山下幸夫（弁護士）／古橋雅夫（関西共同行動）／二階堂裕之／橋本昭／竹内正三／矢島哲夫／大湾宗徳／藤本行雄／田平正子／荒井康裕／戸田ひさよし（門真市議会議員）／守田敏也（フリーライター）／土肥輝夫／浅田桐子（旧日本軍性奴隷問題の解決を求める全国同時企画･京都実行委）／福山義和／鴻池博／西川和男（京都市上京区）／山田耕作／JENNISON Rebecca／奥野恒久（龍谷大学政策学部教員）／山本太郎（参議院議員）／福島みずほ（参議院議員）／阿部知子（衆議院議員）／川田龍平（参議院議員）／伊波洋一（参議院議員）／金子恵美（衆議院議員）／熊谷晋一郎（東京大学先端科学技術研究センター）／浦松祥子（賃金と社会保障/山吹書店）／内山智絵／猿渡達明（IL 文京）／瀧柳洋子／盛田容子（怒りネット）／加藤真規子／他匿名 21 名

【会計報告】（2016 年 11 月 15 日現在）

《収入》

前年繰越金	191,192
賛同金（現金）	162,000
賛同金（振込）	207,000
記録集売上げ	5,400
カンパ	114,487
収入合計	680,079

《支出》

会議費（会場使用、マイク、wifi など）	43,360
日比谷野音 10.27 会場費	125,250
日比谷野音附帯設備（マイクなど）	12400
看板代（振込手数料含む）	108,432
郵送費用（領収書、記録集、資料、習志野など）	38,012
カラーチラシ印刷費	9,504
紙代、封筒など（記録集を含む）	19,960
渉外費（4.21、5.12 反貧困　集会賛同金）	23,080
雑費（文房具、タオル、ｺｲﾝﾗﾝﾄﾞﾘｰ、飲み物、など）	3,115
支出合計	383,113

差引残高　296,966

※　会議費、印刷費の未納分と今後のニュース発送費用など含めて今後 5 万円ほどの支出を見込んでいます。

※　手話通訳は東京都の助成金で賄ったため支出はありません。

来年も大フォーラムを実施する方針を決定～2016 記録集もつくります！

実行委員会では、2016 年 11 月 23 日に反省会を持ち、今後の方針等を議論しました。

財務省が示している社会保障削減案は、厚労省の方針を先取りしています。このままでは、権利条約、基本合意、骨格提言は、なきものにされてしまうかもしれません。

大フォーラム実行委員会は、2017 年も 10 月に大フォーラムを開催すると同時に、それまでの間も多くの人たちと連帯して、国の社会保障削減策と闘っていくことを確認しました。

また、2016 年の 10.27 大フォーラムの記録集も、昨年に引き続き発刊することを決定しました。

どうぞ、2017 年も大フォーラムへのご参加ご協力をお願いいたします。

「骨格提言」の完全実現を求める大フォーラム 2017

2017 年 10 月下旬　実施予定！！

相模原市の障害者支援施設における事件の検証および再発防止策検討チームの最終報告に抗議する

12 月 8 日、厚労省の「相模原市の障害者支援施設における事件の検証および再発防止策検討チーム」が報告書を公表しました。内容の大半を措置入院の制度についてのことが占めています。また、この報告を受けて、開かれた政府の関係閣僚会議の中で安倍首相は措置入院制度の見直しについて発言し、閣議後の記者会見で塩崎厚労大臣は「精神保健福祉法の改正」にまで言及しました。

加害者の精神鑑定もされていない段階で、いかにも拙速な対応です。

「骨格提言」の完全実現を求める大フォーラム実行委員会は、検討チームの報告書について、声明を発出しました。

＊　＊　＊　＊　＊

相模原市の障害者支援施設における事件の検証および再発防止策検討チームの
最終報告に抗議する

2016 年 12 月 9 日

「骨格提言」の完全実現を求める大フォーラム実行委員会

昨日（１２月８日）に発表された「相模原市の障害者支援施設における事件の検証および再発防止策検討チーム」の最終報告について、私たちは以下の観点から強く抗議します。

第１に、その大部分の記述を、措置入院体制と措置入院後の監視体制づくりに当てており、津久井やまゆり園事件のような犯罪を犯すのは、精神しょうがいしゃである、と決めつけて論じられていることです。

現在、植松容疑者に対して、精神鑑定が行われていると報じられていますが、その結果すら待たずに、このような記述を行うということは、精神しょうがいしゃ＝危険な存在と決めつける偏見から論じられているとしか考えられません。

さらに懸念されることは、こうした政府見解が精神鑑定にも影響を与えかねないということです。

第２に、このような政府の論調は、精神しょうがいしゃへの社会的偏見を煽ることになります。取り繕うための記述も見受けられますが、全体の論調とそこから導き出される政策は、政府による精神障害者差別の扇動です。

政府のこうした動きが精神しょうがいしゃをどれほど苦しめているか、私たちは声を大にして抗議します。そして、障害者権利条約、障害者基本法、障害者差別解消法を踏みにじるものであると言わざるをえません。

第３に、この最終報告から導き出される政策は、精神科医療を治安の道具とする結果しかもたらしません。

隔離・拘束に象徴される精神科医療の強制体質を反省するどころか、ますます、病院や地域において拡大する結果にしかなりません。

第４に、植松容疑者のしょうがいしゃの存在を否定する発想がどうして生じたのかについて、全く検討しようとしていないことです。

この検討抜きに、施設の防犯体制をいくら強化しようと、元職員や現職員が犯す犯罪に対しては決して対処できません 。

市町村が認定した福祉施設での虐待は増加しています（２０１３年度が２６３件、２０１４年度が３１１件)。教育委員、著名人、政治家による人のいのちを軽視する発言も頻発しています。私たちは、こうした状況が植松のような人物を生み出してきた社会的背景であると考えます。

いずれにしても、植松のしょうがいしゃの存在を否定する発想がどうして培われてしまったのかを検証しない限り、第２第３の津久井やまゆり園事件を防ぐことはできません。

第５に、１６０名定員と言う大規模収容施設の問題について、全く触れられていないことです。

大規模収容施設であったことが犠牲者を拡大したことは確かです。そして、病院への搬送までに負傷から５時間以上経過している事実があります。

こうした大規模収容施設の問題に向き合わないことは、しょうがいしゃは隔離されても仕方がないという差別思想であり、障害者権利条約、障害者基本法などを踏みにじるものです。

以上の観点から、この最終報告は、津久井やまゆり園事件のような犯罪の再発を防止する真剣な立場に立っているとは言えず、むしろ、この事件を利用して、精神しょうがいしゃの監視体制を強める結果にしかならないと言わざるをえません。

政府に対しては、上述した私たちの指摘を真剣に検討することを要請します。

以上

2016 年 10 月 27 日　厚生労働省前行動

2017 年も大フォーラム継続のため、
ご協力をお願いいたします！

「骨格提言」の完全実現を求める大フォーラム実行委員会は、障害者権利条約、障害者総合福祉法の骨格に関する総合福祉部会の提言（骨格提言）の完全実現を求めて、2013 年から 10 月下旬に厚生労働省近くの日比谷で集会を行うと同時に、社会保障の切下げをストップさせるための行動を行っています。

2017 年も 10 月下旬に日比谷野外音楽堂での集会実施を予定しています。

しょうがいしゃの権利と生活を守るために、ぜひご協力をお願いします。

大フォーラムの行動予定や最新情報は、

インターネットホームページをご覧ください！

https://daiforamu1027.jimdo.com/

【問合せ・連絡先】
〒154-0021　東京都世田谷区豪徳寺 1-32-21 スマイルホーム豪徳寺 1Ｆ
自立生活センターＨＡＮＤＳ世田谷気付
TEL 03-5450-2861／FAX 03-5450-2862／E メール　hands@sh.rim.or.jp
郵便振替口座 00110－0－292158　加入者名 大フォーラム実行委員会
賛同　個人 1 口 ￥500 団体 1 口 ￥3,000